

ハナビラタケの経済的実用化栽培方法並びに一般嗜好食品と有用食品の試作研究

企 業 / (株)ミナヘルス

研究者 / 福島隆一 (埼玉県立熊谷農業高等学校教諭)

ハナビラタケ (Sparassis Crispa) はハナビラタケ科のきのこで、日本では夏から秋に、関東から北海道にかけてカラマツなどに発生し、発見する事がむずかしい幻のきのこのこといわれてきた。味やかおりが良い事から長年にわたって人工栽培が試みられたが、平成9年に世界で初めて人工栽培に成功した。

培地の成分や栽培の温度・湿度・光・通気性などの自然条件や、培養地の原料が高価で経済的実用化栽培方法の確立が必要であった。

オガコの自動充填機・全自動キャッパー・殺菌釜・蒸気ボイラーの導入により、青カビ発生の対策に成功した。

一般嗜好食品 (生・乾燥体) は生産量が少なかったために十分な試作はできなかった。ハナビラタケの乾燥体から顆粒状・粒状の有用食品 (健康食品) の試作には成功した。



ハナビラタケ